大和ロータリークラブ様

GREEN×EXPO 2027とわたし

2026.9.29　　GRREN×EXPO協会

自己紹介

見宮 美早

公益社団法人２０２７年国際園芸博覧会協会
サステナビリティ推進部　部長

1997年にJICA入団以降、ケニア事務所、フィリピン事務所、地球環境部、広報部などに所属、途上国における開発事業に従事、2021年からJICAのサステナビリティ体制構築、方針・戦略策定に携わる。2025年4月から、2027年国際園芸博覧会協会（通称GREEN×EXPO協会）に出向、サステナビリティ推進部長を担う。
※1995年～1996年静岡ロータリクラブ奨学生（米国留学）。

1

GREEN×EXPO 2027の概要

GREEN × EXPO 2027

*This image is a conceptual representation as of the current stage, including building shapes and layout.

GREEN×EXPO 2027　開催概要

正式略称	：	GREEN×EXPO 2027
開催期間	：	2027年３月19 日(金) ～ ９月26日(日)
開催場所	：	神奈川県横浜市・旧上瀬谷通信施設
参加者数	：	有料来場者数 1,000万人以上
出展国数	：	70以上の国・国際機関
開催主体	：	“GREEN×EXPO協会” (会長：筒井 義信（一般社団法人日本経済団体連合会 会長)
主管省庁	：	国土交通大臣、農林水産大臣、経済産業大臣

１都３県では初の万博

高市早苗内閣総理大臣の名誉会長への御就任について（2026年５月22日）

５月22日付をもって、高市早苗内閣総理大臣が２０２７年国際園芸博覧会の名誉会長に御就任されることになりました。

・4月28日　GREEN×EXPO協会による高市総理表敬時の様子

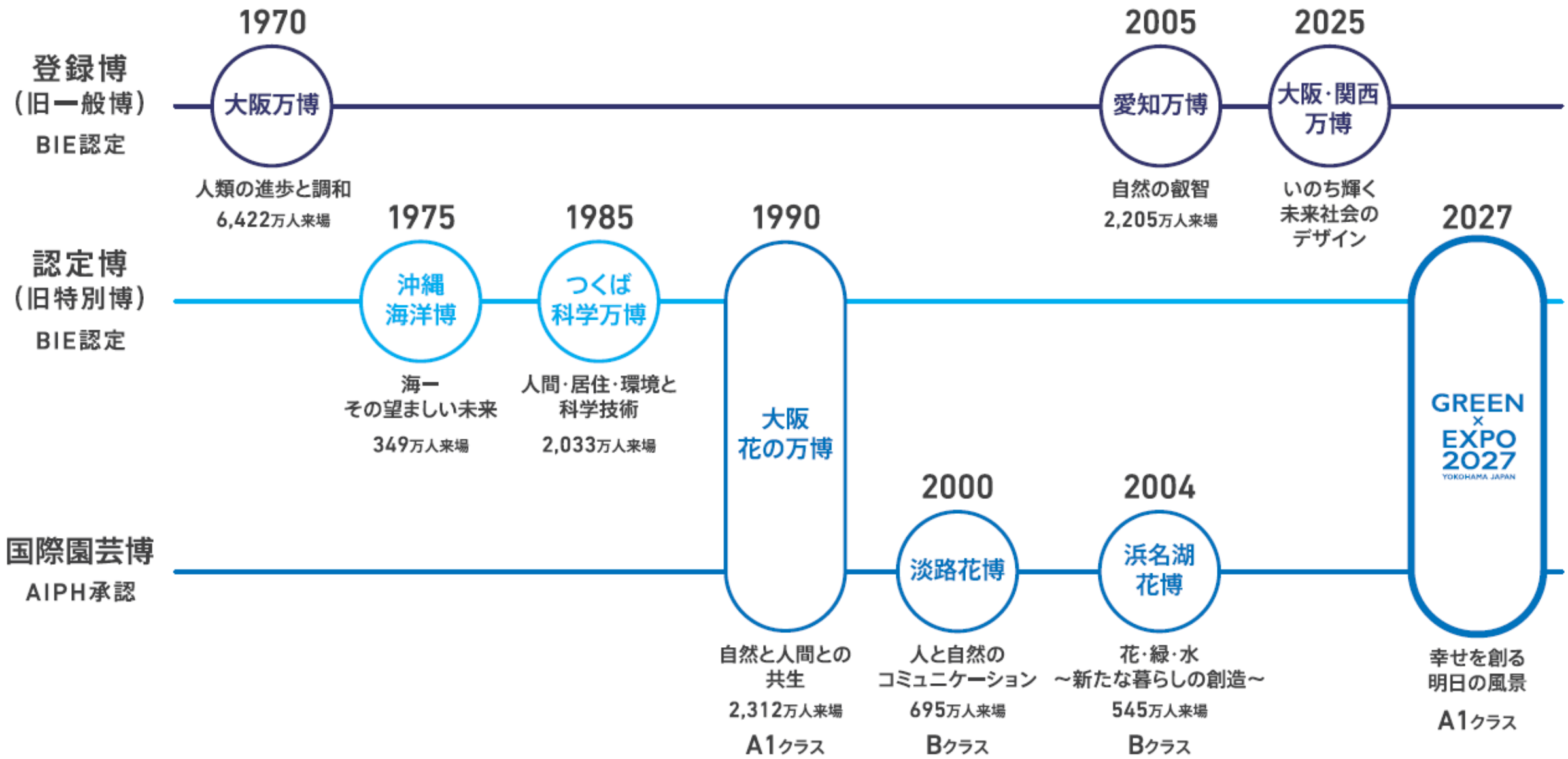
（出展）首相官邸HP（4月28日　GREEN×EXPO協会による表敬）

幸せを創る明日の風景
～Scenery of the Future for Happiness～

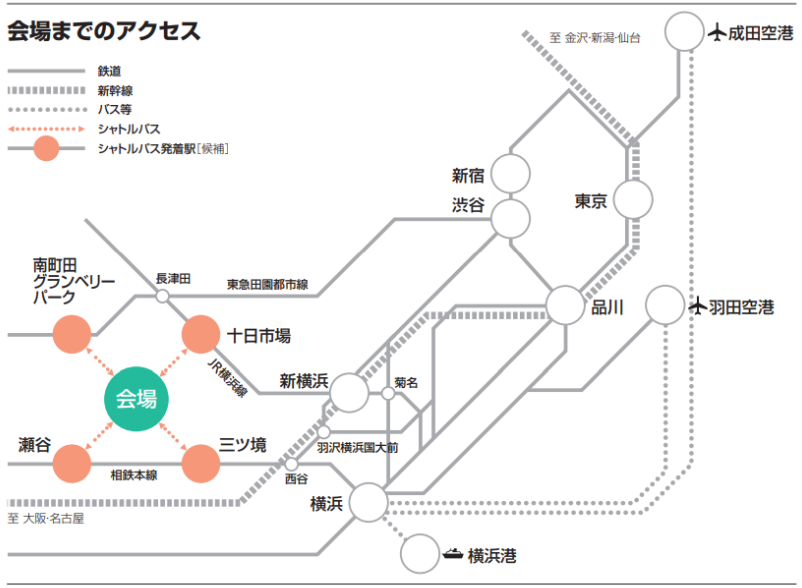
EXPO 2027 YOKOHAMA JAPAN

公式マスコットキャラクター
「トゥンクトゥンク」

日本における国際博覧会と国際園芸博覧会



GREEN×EXPO 2027　会場位置図



［鉄道図］

【シャトルバス運行予定駅】

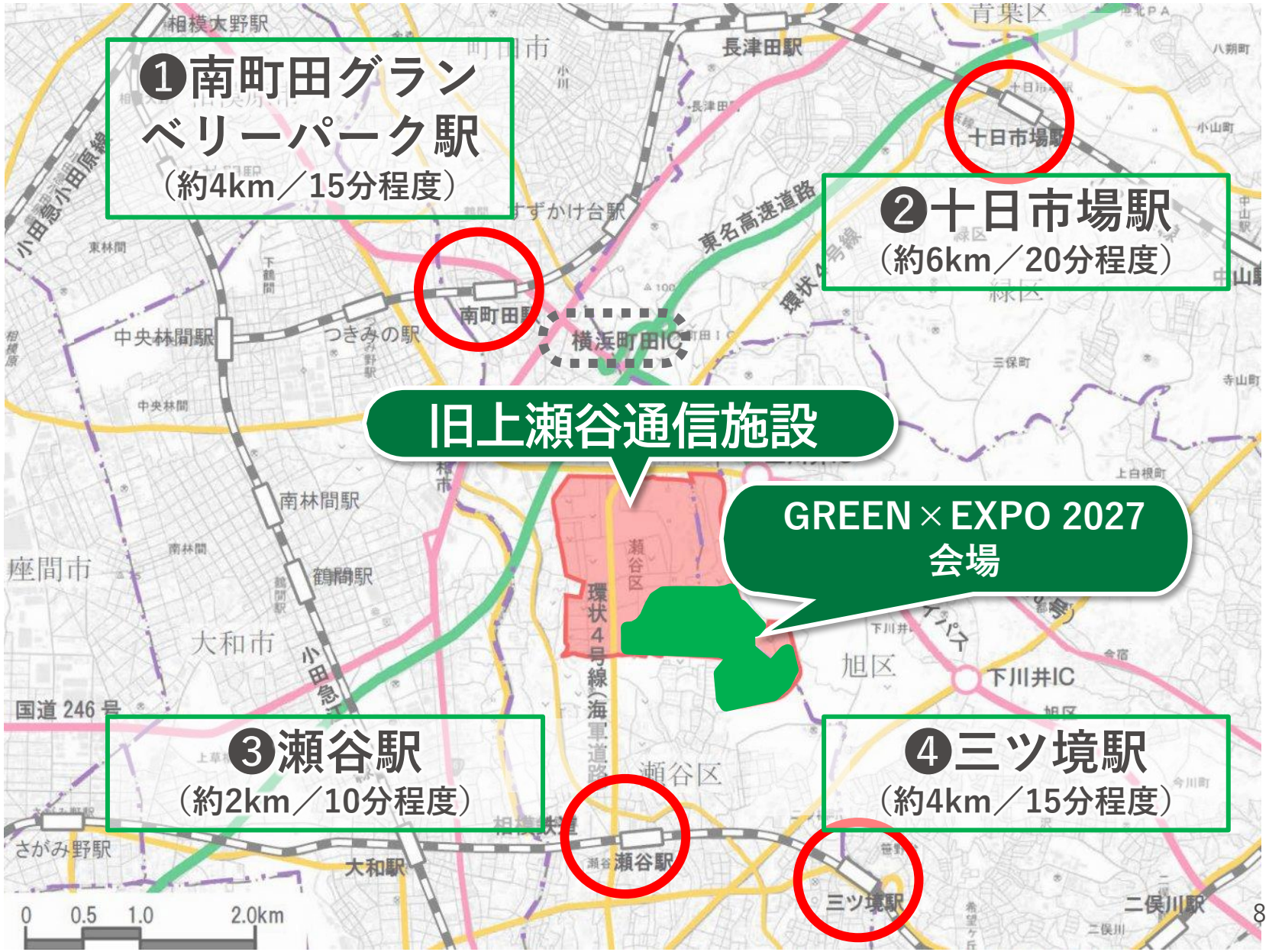
❶ 南町田グランベリーパーク駅
（東急田園都市線）

❷ 十日市場駅（JR横浜線）

❸ 瀬谷駅（相鉄線）

❹ 三ツ境駅（相鉄線）

・会場隣接駐車場、
パークアンドライド駐車場あり



９月１５日　開幕半年前記者発表会

2026.9　最新情報

・2026年９月15日(火)に「GREEN×EXPO 2027 開催半年前記者発表会」を開催。
主催者展示の愛称や最新準備状況、会期中に開催されるイベント、特別企画チケットなどを発表

＜開催概要＞

■日　時：2026年９月15日(火)　10：00～11：35
■場　所：大手町三井ホール
■内　容：・主催者・関係者挨拶
・主催者プレゼンテーション
・スペシャルサポーターによる
トークセッション

■登壇者：
筒井会長、金子国交大臣、鈴木農水大臣、井野経産副大臣、
平原横浜市副市長、黒岩神奈川県知事、マリオ アンドレア・ヴァッターニ駐日イタリア大使
スペシャルサポーター
QuizKnock(ふくらPさん、鶴崎 修功さん)、榊原 郁恵さん、三上 真史さん、
囲碁将棋(文田 大介さん、根建 太一さん）、NMB48(塩月 希依音さん、平山 真衣さん)

EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

テーマ営業出店

- M JAグループ
- N 株式会社丸兆
- O 明治グループ
- P ヤマザキパングループ

Village出展

- A 東急グループ
- B KTグループ
- C NTT東日本株式会社
- D 株式会社大林組
- E 三菱グループ
- F 鹿島建設株式会社
- G 大和ハウスグループ
- H 東邦レオ株式会社
- I 竹中グループ
- J 住友林業株式会社
- K 相鉄グループ
- L 清水建設株式会社

協賛パートナーコンテンツ

- A TAISEI GREEN TERRACE
- B 明治安田「健活パーク」
- C 横浜銀行 GREEN WALL
- D 日本生命 未来に残したい植物園
- E サントリー水素調理レストラン
- F マクニカ グリーンテック メッセ

【公表】テーマ館「ねっこ」　愛称・展示イメージを公表

2026.9　最新情報

ZONE１ 地下の森

ZONE３ 気づきの森

屋外エリア　未来に残したい植物園

ZONE２ 環世界の森

ZONE４ つながりの森

テーマ館　俯瞰イメージ

「全ての生命はつながっている。植物を中心に」をテーマに、植物たちの知られざる能力と、生命同士の複雑で巧妙なつながりを**「映像技術＆研究結果」**×**「アート＆エンターテイメント」**の掛け算により、感動とともに届けていく。

（テーマ館設計監修）隈研吾氏
（テーマ館展示ディレクター）杉山央氏

【公表】園芸文化館「いろはにわ」　愛称・展示イメージを公表

2026.9　最新情報

江戸の植木屋・花屋敷

映像シアター前室

園芸文化館

テーマ館　俯瞰イメージ

江戸時代に発展した園芸文化を**「知り・感じ・未来へとつなぐ」**をコンセプトとした施設。
江戸の植木屋・花屋敷の再現空間や日本と海外の園芸植物のつながりに関する映像シアター、伝統的な園芸植物の生体展示など、日本の園芸文化を楽しみながら体感。

国際出展（公式参加者）

欧州・中東・アフリカ（CIS諸国含む）

アゼルバイジャン★
アンゴラ★
イエメン★
イタリア★
ウガンダ
英国★
エジプト★
エスワティニ★
エチオピア★
ガーナ★
カタール★
カメルーン★
ガンビア★
ギニア★
キルギス★
クロアチア★
ケニア★
コートジボワール★
コモロ連合★
コンゴ（民）★
サントメプリンシペ★
ジブチ★
シリア★
ジンバブエ★
スーダン★
スペイン★
セーシェル★
赤道ギニア
セルビア★
ソマリア
タジキスタン
チャド★
中央アフリカ★
トーゴ★
トルクメニスタン
ブルンジ★
ベナン★
ボツワナ★
マダガスカル★
マラウイ★
マリ★
南スーダン★
モーリタニア★
モザンビーク★
モロッコ★
ヨルダン★
リビア
リベリア★
ルクセンブルク★
レソト★
レバノン

アジア・大洋州

インド★
インドネシア
ソロモン諸島
タイ★
大韓民国★
ナウル
ネパール
パラオ★
東ティモール
フィジー
フィリピン★
ブータン★
ベトナム
マレーシア★
ミクロネシア
モンゴル
ラオス

米州

エクアドル
ハイチ
コロンビア
パナマ★
米国★
ボリビア★

国際機関

ITTO（国際熱帯木材機関）★
IFAD（国際農業開発基金）
UNU （国連大学）
UN-Habitat（国連人間居住計画）
WFP（国連世界食糧計画）

★契約調印公表済国・機関
（2026年9月10日時点）

74か国・５国際機関の参加が公表済（2026年9月10日更新）

9月10日時点で、参加表明国・国際機関数は目標の70程度を達成

IPM（国際参加者会議）の開催

- GREEN×EXPO 2027へ参加予定の国・国際機関（公式参加者）を対象に、IPM（International Participants Meeting/国際参加者会議）を開催。
- 同時に、公式参加者の行政手続き等を支援するOSS（ワンストップショップ）も開設。

開催日程	2026年６月30日（火）・７月１日（水）
開催場所	神奈川県横浜市
参加対象	参加を表明している国・国際機関の陳列区域政府委員および実務責任者等
主なプログラム	GREEN×EXPO 2027出展に際しての各種説明

2

GREEN×EXPO 2027とわたし
（サステナビリティ推進）

GREEN×EXPO の価値の追求

最低限の対応を推進しつつ、EXPOの価値（≒レガシー）を生み出す施策が重要。

最低限の外部要請対応の方針

1. **AIPH（国際園芸家協会）のサステナビリティ関連の要求に準拠していること**
2. **国・神奈川県・横浜市等の法令・基準等に準拠していること**

GREEN×EXPO の価値

3. **大阪・関西万博やオリパラ等のイベントの定量目標値等をベンチマークに、（資金・人的リソースの限界等踏まえつつ）本園芸博がどこまで目指すか**
4. **GREEN×EXPO 2027のコンセプト・特色が打ち出せる領域において「目玉」となる施策等を打ち出す**

植物などの自然資本の多様な価値を認識し、
持続可能な未来と誰もが取り残されない社会を形成

GREEN×EXPO 2027　背景

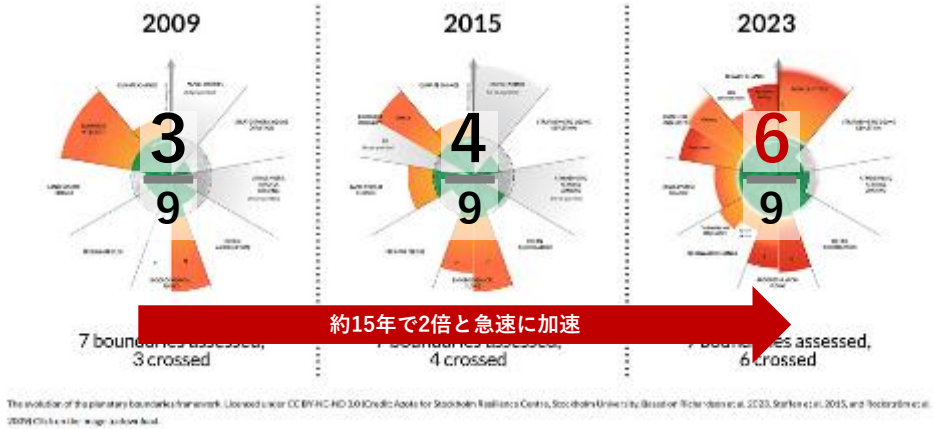
地球が直面する危機がもたらす私たちの暮らしへの影響

プラネタリー・バウンダリー（地球の限界）

地球のSOS、それは、私たちの暮らしのSOS。

これからの暮らし、暮らす街、環境のあり方は大きな転換点。

地球温暖化、生物多様性の喪失、自然災害の増大、海洋の酸性化…など、
地球で、私たちが暮らしていくために必要な９つのカテゴリの内、
６つのカテゴリで既にその限界値を超えてしまっています。



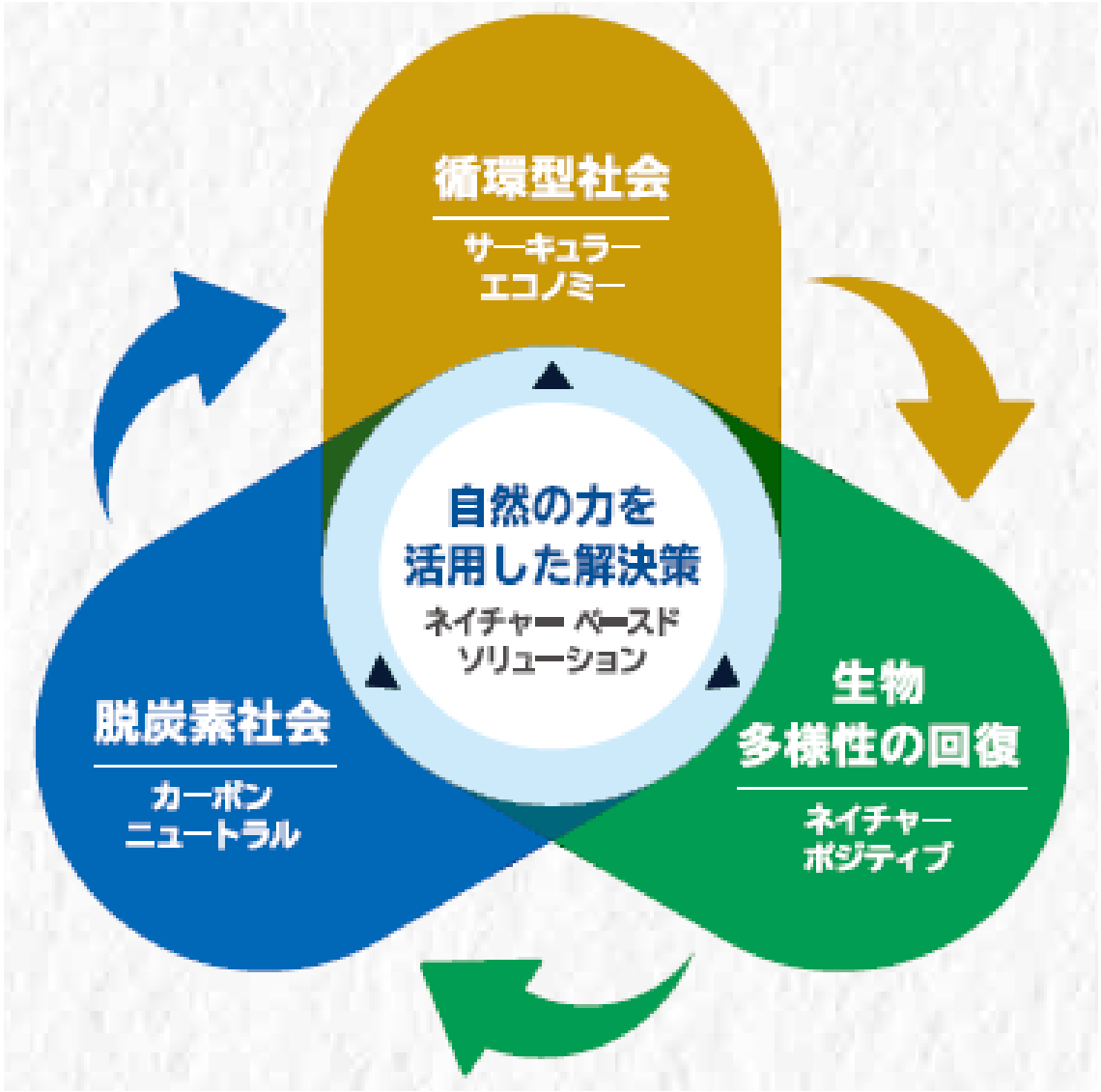
Source：https://www.stockholmresilience.org/research/planetary-boundaries.html

【プラネタリー・バウンダリーがもたらす私たちの暮らしの危機（一例）】

猛暑　豪雨・洪水被害　健康被害　食料危機　水不足

自然を活用した解決策　～ネイチャー ベースド ソリューションズ～

ネイチャーベースドソリューションズ
Nature based solutions
自然を活用した解決策



サーキュラーエコノミー
Circular Economy
廃棄物をできるだけなくし、資源を循環させながら活用していくことを前提にした経済システム

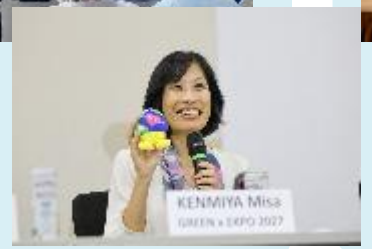
カーボンニュートラル
Carbon Neutral
温室効果ガスの排出量と吸収量を±0にする

ネイチャーポジティブ
Nature Positive
自然の損失を食い止め回復軌道に乗せる

国際会議等での対外発信

〇気候変動枠組条約COP30（ブラジル・ベレン）で、日本政府三省と共催で、GREEN×EXPO 2027を機としたネイチャーポジティブ社会への変革に関するサイドイベントを実施。また、UNFCCC公式サイドイベントに登壇。あわせて、直接、参加国・国際機関へ参加の働きかけを実施。

〇アジアスマートシティ会議（横浜市主催）の「GREEN×EXPOで発信する循環型社会」セッション、「サステナブル・ビジネス・ナイト」（ドイツ商工会主催、東京都商工会共催）などで登壇、「International Society for Professional Innovation Management CONNECT Yokohama」では基調講演を実施。GREEN×EXPO 2027のPRとともに、地球規模課題やサステナビリティに対するGREEN EXPOの意義や役割を発信。



気候変動枠組条約COP30

（2025年11月・ブラジル・ベレン）

アジアスマートシティ会議

（2025年11月・横浜）

サステナブル・ビジネス・ナイト

（2025年11月・東京）

「グローバル・ネイチャーポジティブ・サミット2026」へ参加

- 2026年7月14日－15日に熊本「グローバル・ネイチャーポジティブ・サミット2026」に参加、展示会「NATURE TECH！」ステージ、メインホールにてリレートーク等に登壇。熊本で初、機運醸成を展開。
- 日本における生物多様性に関する国際会議は、2010年の生物多様性条約締約国会議（愛知県）以来、16年ぶり。日本及び27か国から約2,700名が参加し、熊本宣言を公表。このテーマへの関心の高さが示された。
- オープニングでは筒井経団連会長及び国土交通省金子大臣が、クロージングでは農林水産省山下副大臣がビデオメッセージにて、この機運を熊本から横浜につなげるとした。

オープニング
（メインホール）

国土交通省金子大臣による
ビデオメッセージ

展示会「NATURE TECH！」ステージ

GREEN×EXPO 2027 をご紹介するとともに、14の関連組織と一緒に、熊本から横浜へGREEN×EXPO 2027の機運醸成をつなぐことを表明

日本生命との協会のリレートーク登壇

（メインホール）

GREEN×EXPO2027での体験を行動変容につなげ、ともにレガシーを創り上げていきたいと呼びかけ。

サステナビリティ戦略①

テーマ：「幸せを創る明日の風景」

サステナビリティの実現に向けた大きな方向性

1. **サステナビリティ戦略**： テーマ等を踏まえ、生物多様性や気候変動対策等の取組を発信し、サステナブルな社会の実現に貢献。
2. **サステナビリティ実施計画**：AIPH（国際園芸家協会）の規則等に基づき、「サステナビリティ戦略」を実現するためのアクションや実施スケジュール等を定めた「サステナビリティ実施計画」を策定。
3. **サステナビリティ教育計画**：調達コードの策定・運用や、主催者展示等を通じた情報発信、学生との連携、職員への研修等をはじめ、全てのステークホルダーに対して、サステナビリティに関する意識向上や学習を促進。
4. **サステナビリティコミュニケーション・エンゲージメント計画**：公式ウェブサイトやSNS等での情報発信、市民参加の活動の推進、アクセシビリティ・ガイドラインの策定等をはじめ、様々なメディアでの情報発信と双方向のコミュニケーション等により、本園芸博のテーマやサステナビリティに関するメッセージを様々な対象者に発信。
5. **資源循環の考え方**：「GREEN サーキュラー建築」の推進や、再生可能な植物資源の活用など素材使用方針の設定、3Rと分別の徹底等、未来社会を見据えたGREEN×EXPO 2027の名にふさわしい取組を推進。

持続可能性有識者委員会

2027年国際園芸博覧会における持続可能性の取組と魅力の向上のため、専門的視点から意見及び提案を行う

▽ 各計画の策定
▽ 調達コードの策定・運用
▽ ESMSの構築

※ESMS(イベントサステナビリティマネジメントシステム)

ISO 20121認証取得

ISO 20121は、イベントにおける目標を達成するため、環境・社会・経済への影響を統合的に管理し、計画・実行・評価・改善（PDCA）のプロセスを通じて適切に運用するための国際規格。

2026年6月に、国際園芸博覧会として初めてISO 20121の認証を取得した。

2025年			2026年				2027年				2028年
4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月

ESMS体制構築（マニュアル作成等）

ESMSマニュアル更新、研修等

審査対応

審査対応

開催期間

（全部署）ESMS運用（**個別目標進捗管理表、法令順守管理表**など）

各部署・役職における役割を遂行

★ ESMS研修

★ 内部監査

★ 第一段階審査

★ 総長方針発出

★ 第二段階審査

★ **認証取得**

ISO認証書授与式の様子（2026年6月）

★ **維持審査**

サーキュラーエコノミーの推進①

GREEN×EXPO 2027における大阪・関西万博の大屋根リングの木材、パビリオン等の資材、会場内の樹木等を引き継ぎ活用する事例を対外発信。

大阪・関西万博の大屋根リング ⇒GREEN×EXPO 2027でベンチや ウッドデッキ、タワーへ

（出典：2025年日本国際博覧会協会HP）

「KAJIMA TREE」
完成イメージパース
（提供：鹿島建設株式会社）

ベンチとしての活用例
（提供：2025年日本国際博覧会協会）

大阪・関西万博の樹木 ⇒緑配便で GREEN×EXPO 2027の植栽へ

GREEN×EXPO 2027　ラッピングコンテナ

大阪・関西万博のアイルランドパビリオン ⇒GREEN×EXPO 2027のメインゲートへ

大阪・関西万博のアイルランド館

【画像提供】TSP太陽株式会社
※現時点でのイメージです

大阪・関西万博のウーマンズパビリオン ⇒GREEN×EXPO 2027の屋内出展施設へ

【画像提供】
永山祐子建築設計　※現時点でのイメージです

サーキュラーエコノミーの推進②

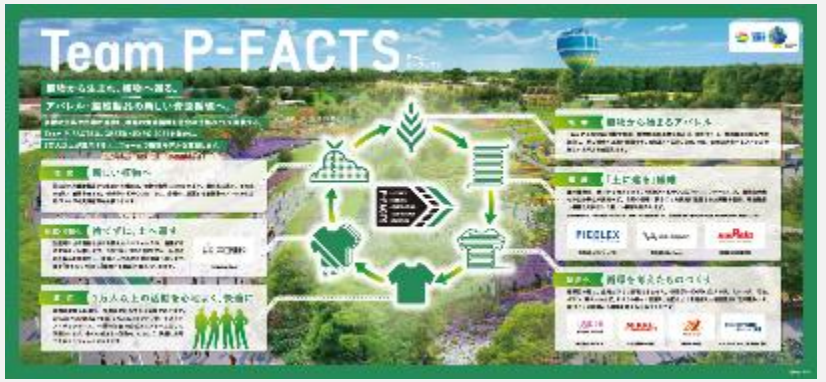
GREEN×EXPO 2027の閉会後の循環も考慮し、施設の存続、GREENサーキュラー建築の実装、着る循環、バイオマス資源の地域循環等を推進する。

協会展示の二施設は会期後も公園施設として存続予定

テーマ館　建築デザイン監修：隈研吾氏

園芸文化館　建築デザイン監修：隈研吾氏

会場でボランティアが着用するユニフォームは、使用後に堆肥化され循環



仮設建築物には循環型の「GREEN サーキュラー建築」を実装

（出典：三菱オフィシャルサイト）

〈GXHouseサービス利用出展者〉
・三菱みんなの未来館

環境負荷の低減等のため2027年国際園芸博覧会協会が用意したGXHouse（提供先：大和リース株式会社）を利用します。

植物・修景に地域のバイオマス資源を活用

植物残さは地域のバイオマス資源循環へ

「着る循環」社会実証プロジェクト

アテンダントスタッフおよびボランティアが着用する公式ユニフォームのデザインを、3月25日に初公開。
植物由来の素材を用いた本ユニフォームは、使用後の回収、堆肥化、堆肥の植物栽培利用まで資源循環の大規模実証を推進。

運営ボランティア

花・緑ガイドボランティア

植物管理ボランティア

株式会社ピエクレックスは、
横浜から世界へ循環の輪を拡げる
Team P-FACTS代表構成員として、
“プロジェクト協賛のプラチナパートナー”
として参画

3月25日「ピエクレックスカンファレンス2026」@都内

画像左）ピエクレックス社アンバサダー 武井壮氏、2026ミス日本グランプリ 野口絵子氏
画像右）公式マスコットキャラクター「トゥンクトゥンク」も参加

アクセシビリティへの対応

【2025年３月公表】

運用中

アクセシビリティ・ガイドライン

国・地域、文化、人種、性別、世代、障がいの有無等にかかわらず、本博覧会に訪れる**全ての人々が安全・快適に過ごすことができるよう配慮した整備・運営を行うためのガイドライン**を策定。

【開幕に向けて推進中】

推進中

アクセシビリティ実装計画

協会主体で実施するアクセシビリティの取り組みとして、**全ての来場者が安心して花や緑とのふれあいを楽しめる環境の実現**に向けた、会場内の施設整備およびサービス導入に関する具体的検討を深度化中。

障がい当事者や学識経験者等の皆様とともに検討

障がい者当事者団体との意見交換の様子

アクセシビリティ（取組の全体像）

- ガイドラインに沿った会場全体の施設整備やサービス導入を推進中

情報提供の充実（各種マップ・ツール）
- バリアフリーマップ
- センサリーマップ
- 触知マップ
- 事前学習ツール　　等

ICT技術
- 移動支援
- 情報提供
- 翻訳案内　　等

共用空間・各種諸室の環境整備
- アクセシビリティセンター
- バリアフリートイレ
- 迷子＆ベビーセンター
- カームダウン・クールダウン／センサリースペース
- 視覚障がい者誘導用ブロック
- 補助犬トイレ　　等

※2026年8月時点の実施計画であり、変更の可能性もあります

アクセシビリティ向上のための取り組み

「誰もが楽しめるEXPO WEEK」
GREEN×EXPO 2027を“ボーダーレス”に体験

■主旨と内容

- 障がいや年齢などの理由で**来場をあきらめている人**や**来場が不安な方**、その家族や友人が、少しでも**安心して移動、来場できる**ように企業、団体、自治体等と連携。
- EXPO参加主体と協力し、会場内で**誰でも楽しめる企画を集中的に実施**。
- **来場できない方々も**GREEN×EXPO 2027を楽しめる企画を実施（動画提供など）
- 期間を特定することでプロモーションやＰＲを集中的に行い、より多くの方の関心と来場を促す。同時に、社会における**アクセシビリティの重要性について認知を高める。**
- EXPO前半のWEEKから得られる知見を活かし、会期通した**より魅力あふれる会場づくりを目指す。**

■実施時期

雨が少なく暑さが厳しくない　**2027年5月初旬～中旬を予定**

ジェンダー平等・女性活躍推進

○ 取り組む目的・経緯

ジェンダー平等・女性活躍は、多くの国々において重要な政策課題と位置付けられ、近年ではあらゆる国際会議において主要メッセージとして掲げられている。

他方、日本をはじめ世界の多くの国々では、女性の安全保障から社会参画の促進に至るまで、依然として多くの課題が残されており、持続可能なグローバル社会の実現に向けて、女性活躍・ジェンダー平等の推進は不可欠なテーマである。

○ GREEN×EXPOにおける取り組み

GREEN×EXPO2027を契機とした女性活躍・ジェンダー平等の推進の取り組みとして、日本の未来を切り拓くキーワードである「Inclusion(包摂)」を、一人ひとりが自分ごと「I（アイ）」として捉えることを目指す**「ダブル・アイ」プロジェクトを実施**する。

また、本プロジェクトは、**大阪・関西万博ウーマンズパビリオンのレガシーを継承**し、ポストSDGsおよび次世代へとつなぐ女性活躍・ジェンダー平等推進の取り組みと位置付ける。

2026年3月4日に「つながる、その先へ」と題してキックオフシンポジウムを実施（次ページ参照）。今後も、会期前イベント（第2回目）、会期中イベントを実施し、その重要性について発信を継続していく。

女性活躍推進

○ 国際女性デーに合わせたイベント（26年3月4日、横浜開催）

26年3月4日にGREEN×EXPO 2027開催１年前と国際女性デーに合わせ、ポスト2030に向けて、未来の価値創造を考えるイベントを開催。

○ AtoWとの共催イベント（26年9月24日、大阪開催）

大阪関西万博を機に設立されたAtoWとの共催で、万博の場で生まれた気づき、対話、つながりを、“社会の力”への変換に向けたイベントを各国総領事を招いて開催。

GREEN
×
EXPO
2027
YOKOHAMA JAPAN
2027.3.19[FRI]▸▸9.26[SUN]
EXPO 2027 YOKOHAMA JAPAN
Bureau International des Expositions